Secureworks

2021 年 1 月 19 日

セキュアワークス株式会社

報道関係者およびアナリスト各位

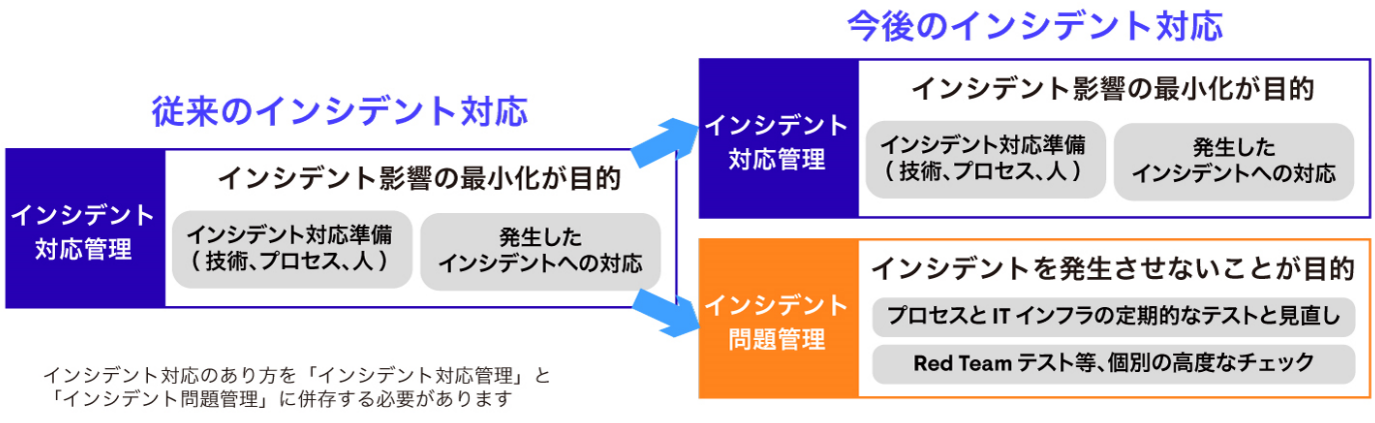
セキュアワークス、急増するインシデントへの対応を成功に導く、
インシデント管理リテーナー（IMR）のサービスを拡張

事前準備とレジリエンスを備えたサービス内容で、組織全体のセキュリティレベルの向上を支援

2021 年 1 月 19 日東京発 - サイバーセキュリティ・サービス業界のグローバルリーダーである米国 Secureworks®（ NASDAQ: SCWX ）の日本法人であるセキュアワークス株式会社（神奈川県川崎市、代表取締役社長　廣川 裕司、以下セキュアワークス）は本日、昨年来急増するサイバーインシデントへの対応を成功に導く、インシデント管理リテーナー（ Incident Management Retainer 、以下 IMR ）のサービス内容を大幅拡張することを発表いたしました。これにより、有事の際のインシデント対応のみならず、従来はセキュアワークスのセキュリティ・リスク・コンサルティングとして提供している各種セキュリティ診断サービスや、サイバー・リスク・コンサルティングとして提供している CSIRT 構築支援などのアドバイザリー・サービスを、包括してこの拡張された IMR としてご利用いただくことができ、インシデント対応の抜本的強化が可能となります。

新型コロナウィルスにより、IT 環境は急激な変化を余儀なくされました。多くの組織・企業において、新しいワークスタイルに対応する IT の準備はもちろん、安全に運用するためのルールや心構えなどの整備も不十分なまま、運用が開始されました。結果として、その準備不足が新たな脆弱性を生み出し、攻撃者にとって格好の標的となっています。

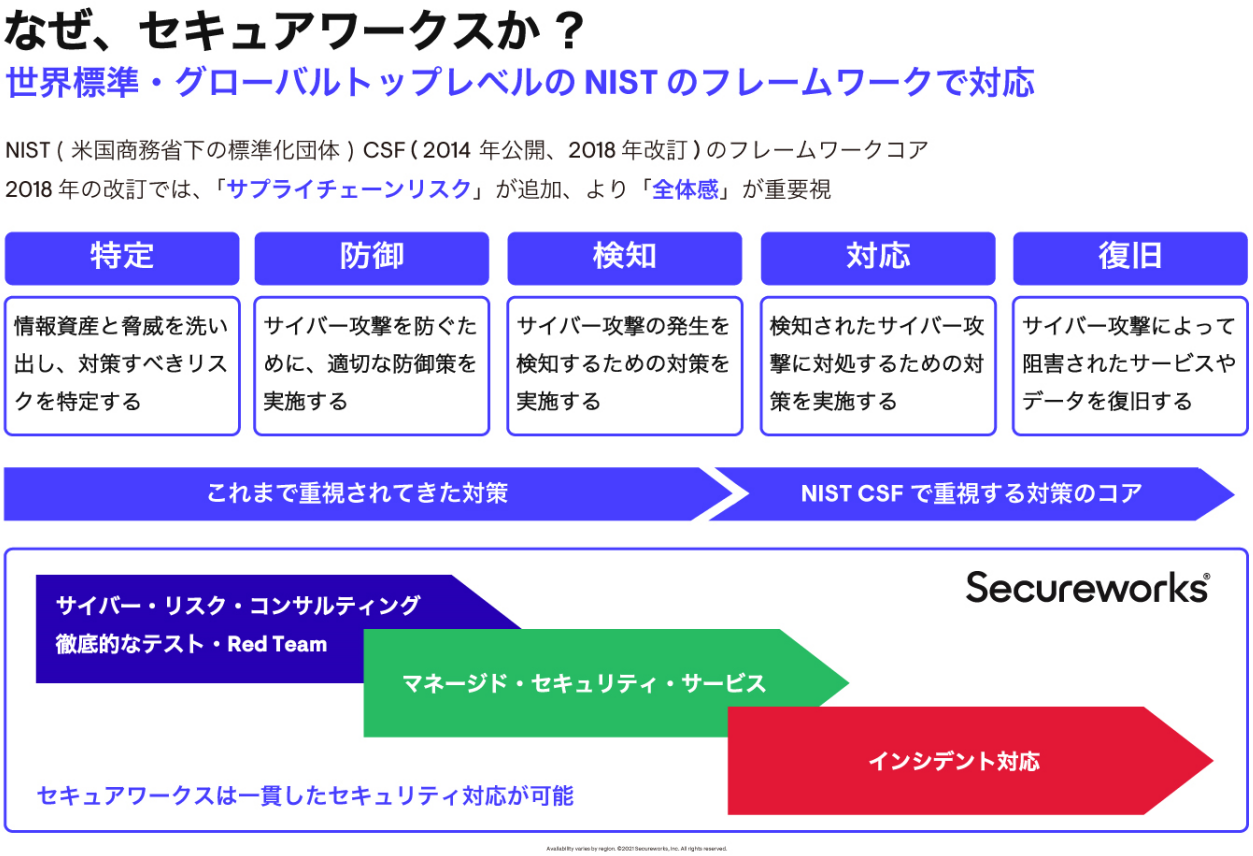
従来のインシデント対応では、「インシデント発生後の影響の最小化」が目的であったため、インシデント対応をするための技術や人的リソースの準備のほか、発生した緊急インシデントをどのように対応するかが焦点となっていました。しかし、今後は「プロセスと IT インフラの定期的なテストと見直し」や「 Red Team ・ Purple Team テスト等による、個別の高度なチェック」を通じて、「インシデントを発生させない」ためのインシデント問題管理もあわせて検討する必要があります。



インシデント対応のあり方を「インシデント対応管理」と「インシデント問題管理」に併存する必要があります

Secureworks

セキュアワークスは、米国国立標準技術研究所（NIST）がまとめたサイバーセキュリティフレームワーク（CSF）の「特定・防御・検知・対応・復旧」に基づく 5 つの備えで、お客様のセキュリティ対策をご提案してきました。さらに 2018 年の改訂では、「サプライチェーンリスク」の項目が追加されたことで、サイバーリスク対策において「全体感」が重要視されるようになりました。インシデントの発生を抑えるためには、緊急インシデント対応だけではなく、インシデントを発生させないための、経営戦略レベルかつ組織横断的なプロセスと、IT インフラの定期的な見直しが必要不可欠になります。

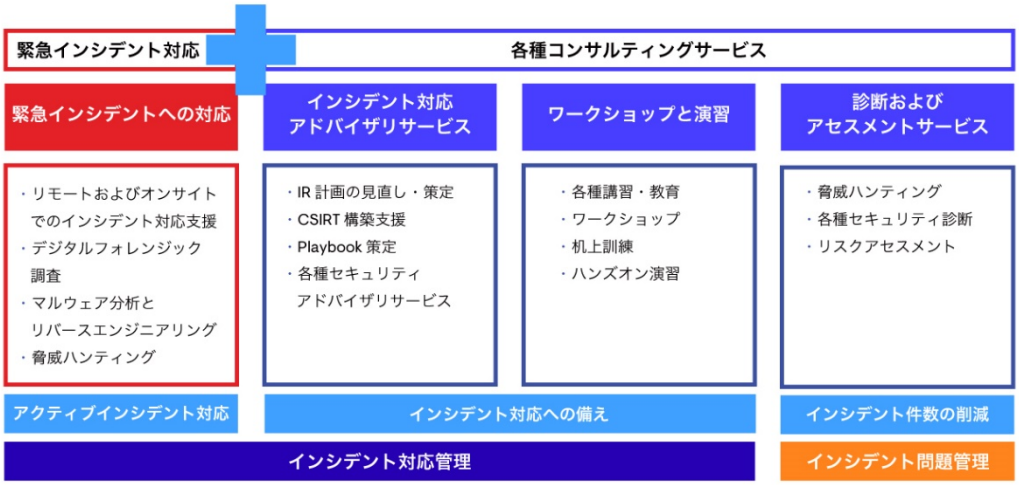


このような情勢を受け、セキュアワークスでは年間約 1,300 件以上のインシデント対応の経験を活かし、緊急インシデント対応だけではなく、インシデント対応のアドバイザリーサービス、ワークショップ・演習、各種セキュリティ診断サービスを IMR のリテーナー方式による事前契約により、包括的してご提供いたします。これにより、組織・企業における幅広いセキュリティ向上のための支援を実現することができます。

Secureworks

インシデント管理リテーナーの構成

計画的に専門的なセキュリティサービスを組み合わせてご活用いただけます。



この新規 IMR サービスでは、セキュリティ支援の目的に合わせて 2 種類のサービスレベルをご選択いただけます。スタンダードサービスレベルは、主に緊急インシデント対応支援や、インシデント対応プロセスの構築・訓練を検討されている組織・企業向け、エンタープライズサービスレベルでは、さらに組織全体のレジリエンスを向上したい組織・企業向けに構成されています。

インシデント管理リテーナー (IMR) における 2 種類のサービスレベル

	スタンダード	エンタープライズ
対象企業	緊急インシデント対応支援や インシデント対応プロセスの構築、訓練	左記に加え、組織のレジリエンスを 向上させたいお客様向け
ご利用いただく組織や部門 (想定)	IT 部門、CSIRT	左記に加え、経営層との連携も
緊急インシデント対応 SLO 初期連絡/リモートサポート /オンサイトサポート	4 時間 / 24時間 / 36 時間 [1]	
年間基本契約への組み込み サービスユニット数 [2]	10	50
IMR プラニングワークショップと ロードマップ	-	O
ニュースレター (年 4 回)	-	O
進捗共有などの定例セッション (年 4 回)	-	O
エグゼクティブ報告会 (年 1 回)	-	O

1. 日本国内の拠点が対象です
2. サービスユニットは、契約サービスレベルに応じたディスカウント価格で 1 単位から追加購入可能です

IMR のリテーナーの消費単位は、目的別に「 サービスユニット、以下 SU 」と「 Emergency IR 時間、以下 eIR 時間」の 2 種類があり、あらかじめ SU を確保していただき、お客様がご利用するサービスに応じて SU を消費していただきます。緊急インシデント対応時は、SU を eIR 時間に転用 (1 SU = 4 eIR 時間に換算) し、時間単位で消費することになります。

Secureworks

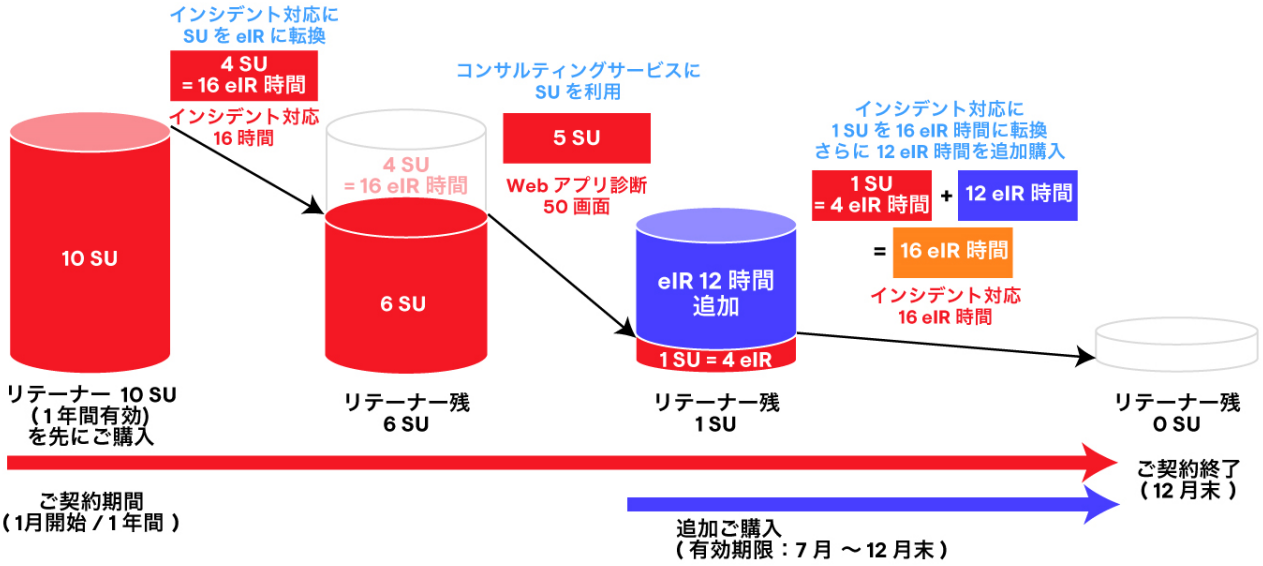
SU と eIR 時間の違い

	サービスユニット（SU）	Emergency IR（eIR）
目的	各種コンサルティングサービスに利用	緊急インシデント対応に利用
契約	契約時に組み込み	契約時には組み込まれておらず、 SU を転用するか、追加で eIR 時間を購入して利用可能
利用方法	ご利用のサービスや規模間によって SU 数を算出して消費	SU から eIR 時間へ転用することで利用可能。1 SU あたり 4 eIR 時間に換算

スタンダードサービスレベルで 10 SU を購入した場合、緊急インシデント対応と、Web アプリケーション診断サービスで利用した場合の SU と eIR 時間の消費の例は以下の通りになります。

サービスユニット（SU）と緊急インシデント対応（eIR）の考え方

緊急インシデント対応時の運用は、 SU を eIR 時間に転換（1 SU = 4 eIR 時間に換算） し、時間単位で消費します



セキュアワークス株式会社　代表取締役社長　廣川 裕司のコメント

2020 年は新型コロナウィルス（COVID-19）の感染拡大により、日本のみならず世界中が未曽有の事態に直面する一年となりました。罹患された方々には謹んでお見舞い申し上げますとともに、感染の終息と皆様の健康維持を心よりお祈り申し上げます。

このパンデミックは、私たちの働き方にも急激な変化をもたらしました。世界中でテレワークが急速に普及し、クラウドサービスの利用が加速、個人デバイスへの依存度が増加し、多くの組織・企業でサイバー攻撃対象が大幅に拡大した一年となりました。一方で、国内においても大規模なサイバーインシデントが多発し、新たな IT ・ネットワークインフラの隙を狙った APT 攻撃やランサムウェア、フィッシングなどのサイバーインシデントやそれに関連する被害が多数報道されました。一度、大きなインシデントに被られた組織・企業は多大なる事業損害や身代金請求だけでなくブランドイメージの失墜や経営危機にも追い込まれるケースが多々あります。激増するインシデ

Secureworks

ントの抜本的対応強化を狙った新たな IMR を効果的にご活用いただくことで、このようなリスクを大きく低減し、各事業部門、経営層、IT 部門が一体となり、組織・企業全体としてレジリエンスの向上を図れるだけでなく、デジタルトランスフォーメーション（ DX ）を促進し攻めの経営の推進の要諦となることを確信しています。

拡張された IMR でご利用いただけるサービスと 必要な SU 数 の参考例は以下の通りとなります。

IMR で利用可能なサービスと必要な SU 数の参考例

IR - 事前対応サービス	参考消費 SU
インシデント対応計画のレビュー	10 SU ～
インシデント対応計画の策定	10 SU ～
脅威ハンティング（Threat Hunting）	10 SU ～（400 エンドポイント）
IR - ワークショップ・演習	**参考消費 SU**
First Responder トレーニング	10 SU ～
各種ハンズオンワークショップ	10 SU ～
机上訓練	10 SU ～
Lessons Learned ワークショップ	10 SU ～
アドバイザリーおよび戦略支援サービス	**参考消費 SU**
CSF リスクアセスメント/ロードマップ有	32 SU ～
CSF リスクアセスメント/ロードマップ無	27 SU ～
CSC リスクアセスメント/ロードマップ有	19 SU ～
CSC リスクアセスメント/ロードマップ無	15 SU ～
ISA リスクアセスメント/ロードマップ有	27 SU ～
ISA リスクアセスメント/ロードマップ無	23 SU ～
テレワークリスクアセスメント	8 SU ～
ワークショップ / 教育・講習	2 SU ～
文書策定支援（ポリシー・ガイドライン策定 / レビュー）	36 SU ～
CSIRT 支援	61 SU ～

各サービスの対象規模や、必要となる消費 SU 数などの詳細につきましては、セキュアワークスまでお問い合わせください。

診断系サービス	前提条件	参考消費 SU
Web アプリケーション診断（ログインなし）	5 画面まで	1 SU
	15 画面まで	2 SU
	30 画面まで	3 SU
	50 画面まで	4 SU
Web アプリケーション診断（ログインあり）	5 画面まで	2 SU
	10 画面まで	3 SU
	20 画面まで	4 SU
	40 画面まで	6 SU
ネットワークセキュリティ診断	5 IP まで	2 SU
	10 IP まで	3 SU
	30 IP まで	4 SU
	50 IP まで	5 SU
ペネトレーションテスト	5 IP まで	3 SU
	10 IP まで	4 SU
	30 IP まで	7 SU
	50 IP まで	9 SU
モバイルアプリケーション診断	iOS または Android	4 SU ～
無線 LAN ネットワーク診断	1 拠点 / SSID 5 つまで	4 SU ～
Red Team Lite	1 ゴールまで	25 SU ～
Red Team テスト	5 ゴールまで	75 SU ～
リモートアクセスシステムの脆弱性評価	10 IP まで	4 SU ～

IMR のスタンダードサービスレベルの参考価格は 312 万円、エンタープライズサービスサービスレベルの参考価格は、1,733 万円になります。価格とサービスの内容の詳細につきましては、セキュアワークスまでお問合せください。

参考

インシデント管理リテーナー

https://www.secureworks.jp/capabilities/incident-response/incident-management-retainer

インシデント管理リテーナー　データシート

https://pcdnscwx001.azureedge.net/~/media/Files/JP/Data%20Sheets/Japan02%20Data%20Sheet_Secureworks_Incident%20Management%20Retainer_SEPT2020.ashx

インシデント管理リテーナー　ソリューションブリーフ

https://pcdnscwx001.azureedge.net/~/media/Files/JP/Solution%20Briefs/Japan02%20SecureworksNC2ResponseReadinessResilience_v2.ashx

セキュアワークスについて

Secureworks

Secureworks® (NASDAQ: SCWX) は、サイバーセキュリティにおける世界的な先進企業です。当社ソリューションをご活用いただくことにより、お客様やパートナーは攻撃者よりも常に先手を打ち、マーケットに迅速に対応し、ビジネスニーズを満たすことができます。クラウドネイティブの SaaS セキュリティプラットフォームとインテリジェンス主導のセキュリティソリューションの独自の組み合わせにより、20 年以上の脅威インテリジェンスと分析から得た深く広い知見を提供しております。このように、長年にわたるサイバー攻撃の最前線で蓄積した実戦経験に基づく知見を提供するセキュリティプラットフォームは、唯一無二のセキュアワークスだけです。

本件に関する報道関係・アナリストの方の問い合わせ先：
セキュアワークス株式会社マーケティング事業本部 古川・寺下
03-6893-2317（代表）
FAX：03-4333-0838
E-mail：SecureWorks.JP@secureworks.com